

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム令和元年度第4回幹事会議事次第

- 1 日時：令和元年10月25日(金)11時00分～12時00分
- 2 場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 7階 705教室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、岡島（清水副会長代理）、遠藤
陪席者：中島（防災科学技術研究所）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）、松原（〃）
(敬称略)

4 議事

- (1) 事務運営に関する申合せについて（案）……………資料1 (P1～)
- (2) Joint Seminar 減災との共同シンポジウムについて……………資料2 (P3～)
- (3) 筑波会議2019サブセッション開催報告について……………資料3 (P7～)
- (4) 協働大学院に関する協定書（ひな型）の修正について……………資料4 (P11～)
- (5) リスク工学専攻主催「第184回リスク工学研究会」開催について……………資料5 (P15～)
- (6) その他
 - ・コンソーシアム所属者向けリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレットについて
 - ・令和元年度第1回運営委員会進行について

5 配付資料

- 資料1-1 事務運営に関する申合せ（案）について
- 資料1-2 事務運営に関する申合せ（案）
- 資料2-1 Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム共同シンポジウム次第
- 資料2-2 Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム共同シンポジウム次第（コンソーシアム関係者用）
- 資料2-3 Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム共同シンポジウム事前登録状況・参画機関出展状況
- 資料3-1 筑波会議2019サブセッション「レジリエンス社会の実現に向けた防災・ヒューマンファクター・サイバーレジリエンス」開催報告について
- 資料3-2 Tsukuba Conference 2019 Session Report
- 資料4-1 協働大学院の教育研究への協力に関する協定書（ひな型）の修正について
- 資料4-2 国立大学法人筑波大学とレジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおいて設置する協働大学院の教育研究への協力に関する協定書（ひな型）
- 資料5-1 リスク工学専攻主催「第184回リスク工学研究会」開催について
- 資料5-2 2018～2019年度リスク工学研究会スケジュール

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおける

事務運営に関する申合せ（案）について

【趣旨】

本コンソーシアムの運営に係る経費について、筑波大学が予算管理・執行を行うことを明確にするため、コンソーシアムの事務局を筑波大学システム情報エリア支援室に置き、事務運営及び予算管理を所掌することの申合せを制定したい。

【申合せ（案）】

資料 1-2 のとおり。

【関連規則】

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（抜粋）

（事務）

第 15 条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

（中略）

（その他）

第 18 条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおける
事務運営に関する申合せ

〔 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム運営委員会
令和●年●月●日制定 〕

この申合せは、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（以下「規約」という。）
第18条の規定に基づき、コンソーシアムの事務運営に関し必要な事項を定めるものである。

（事務局）

- 1 規約第15条第1項に定める事務局は、筑波大学システム情報エリア支援室に置くものとする。
- 2 事務局は、事務運営及び予算管理を所掌するものとする。

附 記

この申合せは、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム発会日である平成29年12月26日に遡及して効力を有するものとする。

**Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
共同シンポジウム次第**

日程 令和元年 10 月 25 日(金)
 場所 関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8 階大ホール
 テーマ 「想定外」を想定できるこれからの人材育成とは—教員・学生・企業の視点から—

司会 古川 宏 筑波大学 システム情報系 准教授

13:00-14:00	受付・会計 (7 階ラウンジ)
14:00-14:05	開会挨拶 林 春男 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長 (防災科学技術研究所)
14:05-14:20	講演 筑波大学におけるレジリエンス人材育成 岡島 敬一 筑波大学 システム情報系 教授
14:20-14:35	話題提供 1 DRI ジャパンにおけるレジリエンス人材育成 長瀬 貫隆 DRI ジャパン 理事長
14:35-14:50	話題提供 2 日本電気におけるレジリエンス人材育成 谷 幹也 日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長
14:50-15:05	話題提供 3 関西大学におけるレジリエンス人材育成 永松 伸吾 関西大学 社会安全学部 教授
15:05-15:20	話題提供 4 社会人学生からみたレジリエンス人材育成 木下 仁視 筑波大学 システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期課程
15:20-15:30	休憩
15:30-16:45	パネルディスカッション 「想定外」を想定できるこれからの人材育成とは モデレーター 甘利 康文 セコム株式会社 IS 研究所 登壇者 各講演者・話題提供者
16:45-16:50	閉会挨拶 遠藤 靖典 筑波大学 システム情報系 教授／リスク工学専攻長
17:00-18:00	レセプション (4 階多目的室、会費 1,000 円、要事前登録) 司会 木村 玲欧 兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 開会挨拶 永松 伸吾 閉会挨拶 谷 幹也

**Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
共同シンポジウム次第(コンソーシアム関係者用)**

日程 令和元年 10 月 25 日(金)

(敬称略)

【幹事会】

11:00-12:00 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 7 階 705 教室
防災科研 林・中島・前山、セコム 甘利・平岡、筑波大学 岡島(清水代理)・
遠藤・石濱・松原 以上 9 名

【運営委員会】

12:15-13:30 7 階 705 教室 (弁当・お茶有)
防災科研 林・中島・前山、セコム 甘利・平岡、筑波大学 岡島(清水代理)・
遠藤・石濱・大塚・秋葉・松原、大日本印刷 佐波・前田、スリーエム ジャ
パン 飯野・Qiao、DRI ジャパン 長瀬、日本自動車研 安部、電子航法研 中
島、産総研 緒方・竹下、労働安全衛生総合研 岡部、NCDRLi (Skype) 以
上 22 名

【シンポジウム】

13:30-14:00 7 階ラウンジ 受付・会計
14:00-14:05 8 階大ホール 開会挨拶
林 春男 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長
(防災科学技術研究所)
14:05-14:20 講演 筑波大学におけるレジリエンス人材育成
岡島 敬一 筑波大学 システム情報系 教授
14:20-14:35 話題提供 1 DRI ジャパンにおけるレジリエンス人材育成
長瀬 貫隆 DRI ジャパン 理事長
14:35-14:50 話題提供 2 日本電気におけるレジリエンス人材育成
谷 幹也 日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長
14:50-15:05 話題提供 3 関西大学におけるレジリエンス人材育成
永松 伸吾 関西大学 社会安全学部 教授
15:05-15:20 話題提供 4 社会人学生からみたレジリエンス人材育成
木下 仁視 筑波大学 システム情報工学研究科 リスク工学専攻
博士前期課程
15:20-15:30 休憩
15:30-16:45 パネルディスカッション 「想定外」を想定できるこれからの人材育成とは
モデレーター 甘利 康文 セコム株式会社 IS 研究所
登壇者 各講演者・話題提供者
16:45-16:50 閉会挨拶
遠藤 靖典 筑波大学 システム情報系 教授/リスク工学専攻長

【レセプション】

17:00-18:00 4 階多目的室 (会費 1,000 円、要事前登録)
司会 木村 玲欧
兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授
開会挨拶 永松 伸吾
閉会挨拶 谷 幹也

Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム共同シンポジウム
事前登録状況・参画機関出展状況（令和元年10月10日15:03現在）

日程：令和元年10月25日(金)

場所：関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホール

1. 事前登録者（締切：10月9日(水)）

合計 74 人（うちレセプション参加 54 人）

【うちレジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関】

33 人 (うちレセプション参加 29 人)	セコム 3 人、大日本印刷 2 人、日本電気 1 人、スリーエム ジャパン 2 人、DRI ジャパン 1 人、日本自動車研究所 1 人、電子航法研究所 1 人、産業技術総合研究所 2 人、防災科学技術研究所 3 人、労働安全衛生総合研究所 1 人、筑波大学 16 人
---------------------------	---

※電力中央研究所、NCDR は欠席

【うち Joint Seminar 減災会員】

19 人 (うちレセプション参加 18 人)	MS&AD インターリスク総研株式会社 総合企画部、関西大学 社会安全学部、京都大学防災研究所、明石市消防局、国立民族学博物館、ひらのきかく舎、三重県 四日市市消防本部、株式会社パスコ 経営戦略本部、NPO 神戸の絆 2005、防災リテラシー研究所、兵庫県立大学 2 人、兵庫県立大学大学院 看護学研究科、兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科、防災科学技術研究所、済生会千里病院、日本ミクニヤ株式会社、株式会社竹中工務店 エンジニアリング本部事業リスクマネジメントグループ
---------------------------	---

【うち一般】

22 人 (うちレセプション参加 7 人)	新潟大学 危機管理室、日本電設工業株式会社 西日本統括本部 安全推進部、株式会社ジイケイ京都、兵庫県立大学 4 人、兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科、株式会社アドレス、電気通信大学 大学院情報理工学研究科、「やさしい日本語」有志の会 2 人、神戸市民生協、日本電設工業(株) 安全推進部、尼崎市 経済環境局 経済部 地域産業課、アクアマリンコンサルティング株式会社、セカンドカード研究処、一般社団法人 エネルギー・資源学会、高槻市 S D G S みらい創生、株式会社地域計画建築研究所、株式会社ニュージェック 統括業務グループ、広島大学
--------------------------	--

2. 参画機関出展

パンフレット配置(7 機関)	セコム、DRI ジャパン、電子航法研究所、産業技術総合研究所、労働安全衛生総合研究所、防災科学技術研究所、筑波大学
ポスター展示 (2 機関)	セコム (2 枚)、防災科学技術研究所 (2 枚)

資料3-1

筑波会議 2019 サブセッション「レジリエンス社会の実現に向けた 防災・ヒューマンファクター・サイバーレジリエンス」開催報告について

2019年10月3日、つくば国際会議場（つくば市）にて開催された筑波会議 2019にて、本コンソーシアム参画機関であるセコム株式会社、国立研究開発法人 防災科学技術研究所、國家災害防救科技中心（台湾）、国立大学法人 筑波大学の4機関の協働によるサブセッションを開催した。サブセッションは「レジリエンス社会の実現に向けた防災・ヒューマンファクター・サイバーレジリエンス」と題し、各分野の立場からレジリエンス社会の実現に向けた研究発表が行われた。ディスカッションでは積極的な発言があり、次の事項を共有することができた。

- ・各分野におけるレジリエンスにまつわる状況は大きく異なる。
- ・多様なメンバーが属するシステムでは、変化は急激であり、前提条件も劇的に変化することが実際に生じている。レジリエンス社会の実現は困難であるが、緊急な課題となっている。

<概要>

【日時】令和元年10月3日(木)13:30-15:00

【場所】つくば国際会議場 2階中会議室 201B（茨城県つくば市竹園 2-20-3）

【来場者数】46名（うちセッション関係者6名、コンソーシアム関係者31名、一般9名）

【筑波会議の趣旨】

世界の若手研究者等が「社会と科学技術」に関する様々な課題について討議する。

【本セッションの趣旨】

近年の社会情勢の不安定化により、従来のリスクマネジメントの考え方・方法論では対応できない不測の事態が数多く発生し、リスクマネジメントを超える新たな概念が希求されるようになってきている。そのような状況を背景として、「不測の事態や状況の変化に柔軟に対応し、求められる機能を維持提供し続け、回復する能力」であるレジリエンスが、リスクに代わる新たな概念として注目されている。これらに対応するため、2017年12月26日、企業、研究機関、大学の協働により、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムが発足した。本サブセッションでは、同コンソーシアム参画機関である筑波大学、防災科学技術研究所、セコム株式会社、國家災害防救科技中心（台湾）の協働により、レジリエンス社会の実現に向けた防災およびサイバーレジリエンスの取組・在り方について多角的に検討する。

【セッション関係出席者】（6名、敬称略）

オーガナイザー	白田 裕一郎	防災科学技術研究所
共同オーガナイザー	松原 悠	筑波大学
スピーカー	Chi-Wen Chen	防災科学技術研究所
スピーカー	Husam Muslim	筑波大学
スピーカー	島岡 政基	セコム
開会挨拶	遠藤 靖典	筑波大学

【レジリエンス研究教育推進コンソーシアム関係出席者】(31名、敬称略)

林 春男	防災科学技術研究所	Chuan-Zhong Deng	國家災害防救科技中心
中島 壮一		Shu-Ching Lu	
前山 明輝		Yu-Pei Chang	
甘利 康文	Tsung-Jung Lee		
平岡 良彦	セコム	Chia-Ying Lin	
長瀬 貫隆	DRI ジャパン	Huei-Ru Hsieh	
見目 久美子		Jia-Chyi Liou	
真城 源学		伊藤 誠	筑波大学
李 昌一		古川 宏	
荒木 幸治	峰 亮太郎		
中島 徳頭	電子航法研究所	石濱 悟	
緒方 雄二	産業技術総合研究所	仲村 伸治	
竹下 潤一	Shih-Chiang Lee	衛 絢子	
	Yu-Ping Wu	鈴村 朋美	
	Huei-Syuan Fu	室谷 若菜	

【スケジュール】(敬称略)

令和元年 10 月 3 日(木)	
13:30-13:35	開会挨拶 遠藤 靖典
13:35-13:40	趣旨説明 臼田 裕一郎
13:40-13:50	発表 Chi-Wen Chen Mass Movement Warning System in Taiwan Using Soil Water Index
13:50-14:00	発表 Husam Muslim Human Factors Solutions For Improving Human Interaction with Automation
14:00-14:10	発表 島岡 政基 Cybersecurity toward Resilient Social Infrastructure
14:10-14:50	全体ディスカッション
14:50-15:00	総括と閉会挨拶 臼田 裕一郎



Tsukuba Conference 2019 Session Report

Date of Report: 2019. 10. 31

1. Session Title	Disaster Resilience, Human Factors, Cyber Resilience toward Realization of Resilience Society
2. Session Organizer's Name	Yuichiro Usuda
3. Date & Time of the session	October 3 rd 13:30-15:00, 2019
4. Venue	Tsukuba International Congress Center, Conference Room 201B
5. Session ID	N03C
6. Number of the Participants	Total: 46 (Speakers: 4 , Audience: 42)
7. Summary of the Session (150 words minimum)	<p>This session was held by 4 institutions that participates in “Resilience Research and Education Promotion Consortium”; SECOM Company Limited from Japan, National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience from Japan, National Science and Technology Center for Disaster Reduction from Taiwan, and University of Tsukuba from Japan.</p> <p>At first, Dr. Yasunori Endo greeted, and Dr. Yuichiro Usuda explained the purpose.</p> <p>Second, 3 presentations below was made.</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. Chi-Wen Chen “Mass Movement Warning System in Taiwan Using Soil Water Index” ✓ Mr. Husam Muslim “Human Factors Solutions for Improving Human Interaction with Automation” ✓ Dr. Masaki Shimaoka “Cybersecurity toward Resilient Social Infrastructure” <p>At the end, there was a discussion. As a result of the presentation and discussion, the following knowledge was obtained.</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ In order to realize a high disaster prevention resilience society, risk and vulnerability assessment, monitoring and early warning, reliable knowledge, and systematic preparation are important. ✓ In human-centered design, the user should understand the situation of the automatic system, secure the users high skill, and ensure that the user stays in the control loop. In situations where machines cannot handle, humans are required to respond appropriately. ✓ Cyberspace society needs to consider such as uncertainties, presence of malicious users, and unintentional attackers. To realize cyber resilience, it is important to evaluate risks that threaten security and safety, and to understand business environment systems and changes over time. ✓ The resilience situation in each field is very different. In a system with diverse members, there is a rapid change of the assumptions. Realizing a resilience society is difficult, but an urgent issue.

8. Photos

	
<p>Greeting by Dr. Yasunori Endo</p>	<p>Presentation by Dr. Chi-Wen Chen</p>
	
<p>Presentation by Mr. Husam Muslim</p>	<p>Presentation by Dr. Masaki Shimaoka</p>
	
<p>Conclusion by Dr. Yuichiro Usuda</p>	<p>Group photo by participants</p>

9.セッションを実施しての所感、次回に向けての改善課題等の提案／Comments & suggestions

It would be better to discuss more about the contact points between Disaster Resilience, Human Factors, and Cyber Resilience for Resilience Society.

** Please adjust the size of the fields if necessary.*

Reporter: Yuichiro Usuda

(注) この Session Report は、項目 9.を除いて公開します。その点をご留意の上、作成願います。また、項目 9. を除いて英語で作成願います。(項目 9. は日英どちらでも可。)

N.B. This report will be made public except for Field 9. Please fill out all the fields but Field 9 in English. (Field 9 can be filled out in English or Japanese.)

協働大学院の教育研究への協力に関する協定書（ひな型）の修正について

【趣旨】

令和元年度第3回幹事会（令和元年9月30日(月)）にて報告した、筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムの2020年度設置に伴う協働大学院に関する協定書(ひな型)について、筑波大学の関係部局からの要請により次の修正があった。

【修正箇所】

(新設)

17 甲と乙は、教育研究活動を適正に遂行するために、外国為替及び外国貿易法（外為法）を含む関連法令を遵守するものとする。

【修正後の協定ひな形】

資料4-2のとおり。

資料4-2

国立大学法人筑波大学とレジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおいて設置する協働大学院の教育研究への協力に関する協定書（ひな型）

国立大学法人筑波大学（以下「甲」という。）とレジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）は、協働してリスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援する事を目的とし、甲に協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラム（以下「R²EP」という。）を設置することとした。甲とコンソーシアムの会員である x x x x（以下「乙」という。）は、協働大学院の教育研究体制の構築及び連携・協力の為に、次のとおり協定を締結する。

（協働大学院教員）

- 1 協働大学院教員候補者の選考は、甲が、協働大学院で必要とする分野の研究者について、乙と協議して行い、甲の人事手続きに即して行うものとする。また、甲は、乙と協議のうえ、協働大学院教員候補者として選考された乙の研究者に甲の教授（協働大学院）又は准教授（協働大学院）（以下「協働大学院教員」という。）を委嘱する。
- 2 甲は、協働大学院教員には給与を支払わない。
- 3 協働大学院教員は、R²EP の学生（以下「学生」という。）に対する専門分野の研究指導、授業又はセミナー等（以下、「研究指導等」という。）を行うものとする。
- 4 協働大学院教員が乙管理下の施設において学生の研究指導等を行う場合、当該施設内での学生の行動は乙の規定に従うものとする。
- 5 協働大学院教員は、甲の R²EP 運営委員会等の構成員となるものとする。ただし、管理・運営については、免除することができるものとする。
- 6 協働大学院教員の研究指導は、当該学生の課程修了まで継続して担当することができる。ただし、研究指導を担当することが困難となる場合は、あらかじめ当該学位プログラムリーダーに申し出るものとする。

（指導体制）

- 7 研究指導は、甲の大学教員及び乙の協働大学院教員の複数体制で行うものとする。

（学生の資格等）

- 8 乙において研究指導等を受ける場合の学生の入所の手続き及び学生の資格又は身分は、乙の定めるところによる。
- 9 学生が乙において研究指導等を受けて得た研究成果は、原則として公表できるものとする。この場合、学生はあらかじめ協働大学院教員の了解を得るものとする。また、甲は学生に対し本項の規定を知悉せしめ、且つ遵守せしめるものとする。

（知的財産権の取扱い）

- 10 学生が乙における研究により生じた特許権等の財産権の帰属は、甲と乙又は学生との別段の合意がある場合を除き、乙の定めるところによる。また、甲は学生に対し本項の規定を知悉せしめ、且つ遵守せしめるものとする。

（守秘義務）

- 11 研究指導を受ける学生は、乙での実習等において知り得た機密事項を、許可なく第三者に漏洩又は利用してはならない。研究指導を受ける期間が終了した後についても同様とする。また、甲は学生に対し本項の規定を知悉せしめ、且つ遵守せしめるものとする。

(その他)

- 12 協働大学院教員が、乙において学生の研究指導等を行う場合の施設・設備の使用料等は無償とし、消耗品類等については、必要に応じて予算の範囲内で甲が購入し、乙に提供するものとする。また、協働大学院教員が甲において研究指導等を行う場合の交通費の甲による負担については、甲の規定に従うものとする。
- 13 乙において学生が関与する事故が発生した場合、又は甲において協働大学院教員が関与する事故が発生した場合は、事故発生状況等について調査の上、甲と乙の協議に基づき処理するものとする。
- 14 前項において、学生の故意又は重大な過失以外の事故により乙の設備等を損傷した場合は、学生及び甲はその責を負わない。また、協働大学院教員の故意又は重大な過失以外の事故により甲の設備等を損傷した場合は協働大学院教員及び乙はその責を負わない。
- 15 第13項において、乙の故意又は重大な過失以外の乙における事故により学生が身体に障害を受けた場合は、乙はその責を負わない。また、甲の故意又は重大な過失以外の甲における事故により協働大学院教員が身体に障害を受けた場合は、甲はその責を負わない。
- 16 甲は、学生に対し、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入するように指導するものとし、乙は、学生教育研究災害障害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入しない学生の乙への立入りを禁止することができるものとする。
- 17 甲と乙は、教育研究活動を適正に遂行するために、外国為替及び外国貿易法（外為法）を含む関連法令を遵守するものとする。
- 18 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合、又は改訂の必要がある場合、又は廃止の必要がある場合又はこの協定書に定めるもののほか必要な事項を定める場合は、必要に応じてコンソーシアムの意見を聴き、甲と乙が協議して処理するものとする。
- 19 この協定書は、令和 年 月 日から実施する。

この協定書は、2通作成し、甲と乙で各1通を所持するものとする。

令和 年 月 日

[住所]

甲 国立大学法人筑波大学

[代表者名]

[住所]

乙 [機関名]

[代表者名]

リスク工学専攻主催「第 184 回リスク工学研究会」開催について

【趣旨】

リスク工学専攻では、博士後期課程の学生数を充足するような施策が必要とされている。そこで、リスク工学専攻が学内外の講師を招き年に 10 回程度開催している、博士前期課程 1 年生を主な対象としたリスク工学研究会(RERM)の 1 回を用いて、本コンソーシアム参画機関で働く博士号取得者を講師とした講演会を開催することとなった。

本講演会の実施により、筑波大学の内部で博士前期課程から博士後期課程に進学する学生が増加することや、学生に研究・キャリアについて改めて考える機会を提供することが期待される。

【概要】

イベント名 第 184 回リスク工学研究会(RERM)

日時 令和元年 11 月 18 日(月)18:15-19:15

場所 筑波大学 筑波キャンパス 総合研究棟 B 棟 110 教室 (つくば駅からバスで 8 分)

目的 ・博士前期課程学生の進学意識を高め、博士後期課程定数充足を促進すること。
・学生がコンソーシアム参画機関の業務について知り、自身の研究やキャリアとの接点について改めて考えを深めること。

講師 佐波 晶氏 (大日本印刷株式会社 ABセンター ICT 事業開発本部
事業開発第 2 ユニット第 4 部 部長)

講演タイトル 博士の企業就職というキャリアパス

講演概要

日本の大学院における博士号(工学)取得者のうち、約 5 割がアカデミアに就職する一方、4 割強は企業に就職している。本講演では、実際に博士号を取得し、大学での教員を経て企業就職した講師から、現在所属する大日本印刷株式会社の事業紹介とリスク工学研究への繋がり、従事する業務と日常的な活動を紹介する。その上で、企業人から見た博士号の意義や、博士後期課程における研究・学修が企業活動にどのように役立つかを紹介するとともに、業務において期待されるスキル・理解を考察し、博士の企業就職というキャリアパスについて参加者と検討を深める。

2018～2019 年度 リスク工学研究会スケジュール

	回	日時	講演者	所属	講演タイトル
2018 年度					
1	166	4月12日(木) 17:00-18:00	Mario Arturo Ruiz Estrada	マレーシア マラヤ大学	Hydrological Hazard Assessment: The 2014-15 Malaysia floods / A New Model to Evaluate the Economic Effects of Floods and Its Application in China
2	167	5月21日(月) 15:15-16:15	面 和成	筑波大学	暗号通貨のセキュリティ
3	168	6月4日(月) 15:15-16:15	亀山 啓輔	筑波大学	筑波大学の情報環境の維持とリスク
4	169	6月14日(木) 18:15-19:15	倉橋 節也	筑波大学	データからモデルベース政策形成へ
5	170	7月2日(月) 15:15-16:15	趙 方明	HDI Global SE社	サイバー保険の現状と今後の課題 - How to deal with the "residual" Cyber Risk? A multi- effect approach - Cyber Insurance
6	171	10月22日(月) 18:15-19:15	島田 貴仁	科学警察研究所	リスクとしての犯罪—犯罪被害予防のための 心理学的アプローチ
7	172	11月14日(水) 18:15-19:15	足立 高德	首都大学東京	アルゴリズム取引の実際
8	173	11月19日(月) 18:15-19:15	内山 祐介	筑波大学	確率論的リスク解析の基礎数理
9	174	11月26日(月) 18:15-19:15	川上 啓一 中條 恵理華	東京海上日動リ スクコンサルテ ィング株式会社	企業向け交通事故削減コンサルティングと いう仕事
10	175	12月10日(月) 18:15-19:15	北崎 智之	産業技術総合研 究所	自動運転技術の進化と普及における新たな 交通事故のリスク
11	176	12月17日(月) 18:15-19:15	三本 知明	KDDI 総合研 究所	行列分解のプライバシー保護技術としての可 能性
12	177	1月11日(金) 18:30-19:30	関谷 直也	東京大学	災害社会科学
2019年度					
1	178	5月20日(月) 18:30-19:30	本城 慶多	埼玉県環境科学 国際センター	気候変動の不確実性と集団の意思決定
2	179	6月3日(月) 18:15-19:15	木下 陽平	筑波大学	合成開口レーダー干渉法 (InSAR) で大気を 診る: GPS に続く宇宙測地技術の気象学的応 用へ
3	180	6月17日(月) 18:15-19:45	今井 賢樹 石田 守也	東京電力ホール ディングス株式 会社	福島第一原子力発電所の事故と廃炉作業の 現状 / 企業はどのような人材を求めている か
4	181	7月1日(月) 18:15-19:15	齊藤 裕一	筑波大学	ヒヤリハットデータ解析に基づく先読み運 転知能の高度化
5	182	10月7日(月) 18:15-19:15	高橋 雅夫	統計センター	公的統計の品質向上に関する取り組み
6	183	10月21日(月) 18:15-19:15	村上 正浩	工学院大学	ターミナル駅周辺地域のエリア防災対策
7	184	11月18日(月) 18:15-19:15	佐波 晶	大日本印刷株式 会社	博士の企業就職というキャリアパス
8	185	12月2日(月) 18:15-19:15	Chris Dai	株 式 会 社 LONGHASH	(調整中)
9	186	12月16日(月) 18:15-19:15	佐藤 稔久	産業技術総合研 究所	(調整中)
10	187	12月23日(月) 18:30-19:30	山中 英生	徳島大学	(調整中)

※2019 年度は開催目安である 10 回分は予定済だが、追加も可能。

※2020 年度は講演者未定。